

I 経済の活性化

4 農林業の振興

1 農業の振興

主担当部局長名
農林部長 福谷 健夫



奈良のイチゴ「古都華」

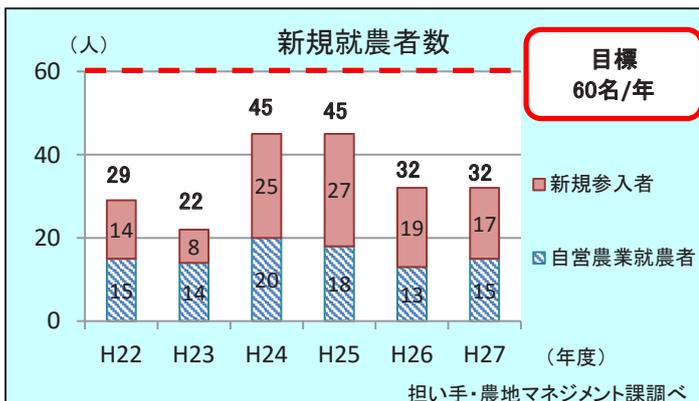
目指す姿

農業、農村が持つ資源を最大限に発揮させることにより、奈良らしい農業・農村の活性化を図ります。

これまでの成果

- ・県産食材のイメージアップやブランド力向上を目的に、平成28年1月に東京白金台において食のアンテナショップ「ときのもり」がオープンしました。
- ・平成27年度に新たに下市町等で地域づくりに取り組むための組織が設立され、合計19集落が地域づくり協議会に参加し、柿の木オーナー制や稲刈り体験等、都市農村交流を実施しました。
- ・奈良県農業研究開発中期運営方針に基づく研究等により、平成27年度は、普及を通じて20件(研究者1人当たり0.50件)の技術を生産者等に提供したことにより、研究者1人当たりの産地で活用された技術件数は、目標の0.5件/年を達成しました。

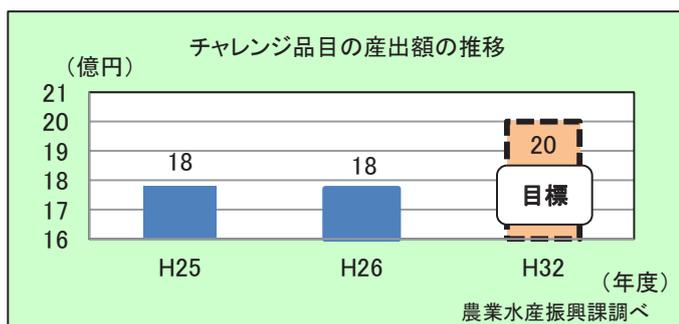
1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	新規就農者を毎年60名育成します。 (H18～25年度平均:33名/年)
取組	就農相談窓口の設置や研修の実施、就農後のフォローアップ活動により新規就農者への支援を行いました。
成果	平成27年度の雇用就農を除く新規就農者は32名と目標の60名には至りませんでした。上記の取組を進めることで、平成26年度と同程度の新規就農者は確保できました。営農技術の取得や資金の確保、農地確保の難しさが課題となっています。

2. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略目標	①チャレンジ品目(大和野菜、サクランボ、切り花ダリア、切り枝花木、有機野菜、イチジク)の生産額を平成32年度までに20億円に増やします。(H25年度:18億円) ②リーディング品目(柿、キク、イチゴ、茶、大和畜産ブランド)の生産額を平成32年度までに128億円に増やします。(H25年度:118億円)
------	---



取組	チャレンジ品目の生産拡大、販路開拓等を実施しました。(①)
成果	大和野菜等について、取扱店舗の増加や、奈良フードフェスティバル等での食材活用等のPR活動による需要の高まりはありますが、平成26年度のチャレンジ品目の産出額は17.7億円と、平成25年度と同程度で推移しました。